算定漏れ発見など５つの場面で活用

日本病院会が 9 月 4 日に開催した「中小出来高病院経営管理者向け研修会」で、社会医療法人若弘会 若草第一病院 健康情報部部長の井上寛氏がユーザー事例を発表しました。

井上氏（以下写真）は「社会医療法人 若弘会 わかくさ竜間リハビリテーション病院 JHAstis 活用事例報告」と題して講演。500 床（回復期 168 床：4 病棟、療養 254 床：5 病棟、障害者 78 床：2 病棟）の病床規模、主な経営指標や病棟転換の実施状況などを紹介した上で、JHAstis 活用事例を報告しました。



		合計金額(円)	自院実施率	他院実施率
1	特殊疾患入院施設管理加算	5,341,000	100.0%	95.3%
2	調剤料（入院）	0	0.0%	84.2%
3	クレアチニン	19,030	74.2%	70.0%
4	ＢＵＮ	19,030	74.2%	69.7%
5	ＡＬＴ	28,560	74.2%	69.5%
6	ＡＳＴ	28,560	74.2%	69.5%
7	カリウム	19,030	74.2%	68.6%
8	ナトリウム及びクロール	19,030	74.2%	68.6%
9	末梢血液一般検査	36,960	74.2%	67.6%
10	電子画像管理加算（単純撮影）	59,850	58.1%	63.1%
11	単純撮影（デジタル撮影）	72,760	58.1%	63.1%
12	ＣＲＰ	0	0.0%	63.0%
13	生化学的検査（１）判断料	67,680	77.4%	62.9%
14	ＴＰ	12,210	67.7%	62.5%
15	血液学的検査判断料	57,500	74.2%	62.0%
16	単純撮影（イ）の写真診断	88,840	58.1%	62.0%
17	ＬＤ	18,480	74.2%	61.3%
18	免疫学的検査判断料	66,240	74.2%	60.1%
19	ＢＩＬ／総	18,480	74.2%	58.2%
20	ＡＩｂ（ＢＣＰ改良法・ＢＣＧ法）	18,260	74.2%	57.6%

わかくさ竜間リハビリテーション病院では、(1) 算定漏れの発見 (2) ハイリスク薬の薬剤管理指導料の算定 (3) 退院時診療状況添付加算の算定 (4) 療養病棟への入院経路比較 (5) 渉外活動の成果を示す――の大きく 5 つの場面で活用していました。例えば、(1) の「算定漏れの発見」では、JHAstis の「病床機能別レポート」で、障害者病棟の「手技料他院の算定率 TOP50」を見ると、「調剤料（入院）」と「CRP」の実施率がいずれも「0%」になっており、他院と比較して明らかに低い（調剤料「84.2%」、CRP「63.0%」）ことが判明。確認

したところいずれもシステム的な対応に問題があり、これらを修正して無事、算定率を正常化し、増収に貢献しました。

井上氏は JHAstis の特長について、▼算定情報のベンチマークから実際に収益の改善に繋がった▼問題点が効率的に把握できたことで、取り組む時間が確保しやすかった▼定期的に「レポート」が送られてくるので忘れることなく確認することができた▼「レポート」は問題点の有無に関わらず、経営陣にも転送して情報発信した▼ベンチマークは、病棟の運用内容によって単純比較できないことがあった▼JHAstis を継続活用することで、前年度比較ができたので、他病院とのベンチマークができない場合に活用できた――などを挙げて講演を締めくくりました。